

— 日本草地学会 熊本大会 日程 —

3月24日(土)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付	パレアホール前							受付					
パレアホール	パレアホール							優秀若手発表者賞講演		総会, 学会賞授与式, 受賞講演			
A会場	パレア9F			評議員会									
D会場	パレア10F												
会員控え室	パレア9F										会員控え室(飲食可)		
懇親会場	ホテルメルパルク熊本												懇親会 (20:30まで)

3月25日(日)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付	パレアホール前												
パレアホール	パレアホール				ポスター発表(奇数)			ポスター・賛助会員展示		公開シンポジウム「熊本地震からの復興に向けて」			
A会場	パレア9F			口頭発表				企画シンポジウム「植物遺伝資源利用における課題と今後の展開」					
B会場	パレア9F			口頭発表		草地学教育委員会							
C会場	パレア9F				シニア発表								
D会場	パレア10F			口頭発表				企画集会「周年親子放牧による高収益繁殖経営を目指して②」					
E会場	パレア10F			口頭発表				小集会2「教えて先輩！」					
会員控え室	パレア9F										会員控え室(飲食可)		

3月26日(月)		8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00
受付	パレアホール 前			受付									
パレア ホール	パレアホール 10F		ポスター・賛助会員展 示										
A会場	パレア 9F		口頭発表	口頭発表			口頭発表						
B会場	パレア 9F			口頭発表		企画委員会							
C会場	パレア 9F		口頭発表	口頭発表		和文誌・英文 誌合同編集 委員会	英文誌AE委 員会						
D会場	パレア 10F		口頭発表				小集会1「飼料作物育種に おける種子増殖の現状と課 題④」						
E会場	パレア 10F		口頭発表	口頭発表			口頭発表						
会員控 え室	パレア 9F			会員控え室(飲食可)									

会場へのアクセス

【JR熊本駅から】

市電：23分（「水道町」電停下車）

熊本都市バス、九州産交バス、熊本電鉄バス、熊本バス：17分（「水道町」バス停下車）、15分（「通町筋」バス停下車）

タクシー：15分

【熊本交通センターから】

市電：11分（「辛島町」電停乗車～「水道町」電停下車）

熊本都市バス、九州産交バス、熊本電鉄バス、熊本バス：8分（「水道町」バス停下車）、6分（「通町筋」バス停下車）

タクシー：5分

【熊本空港から】

九州産交バス（空港専用リムジンバス）で40分、「通町筋」バス停下車

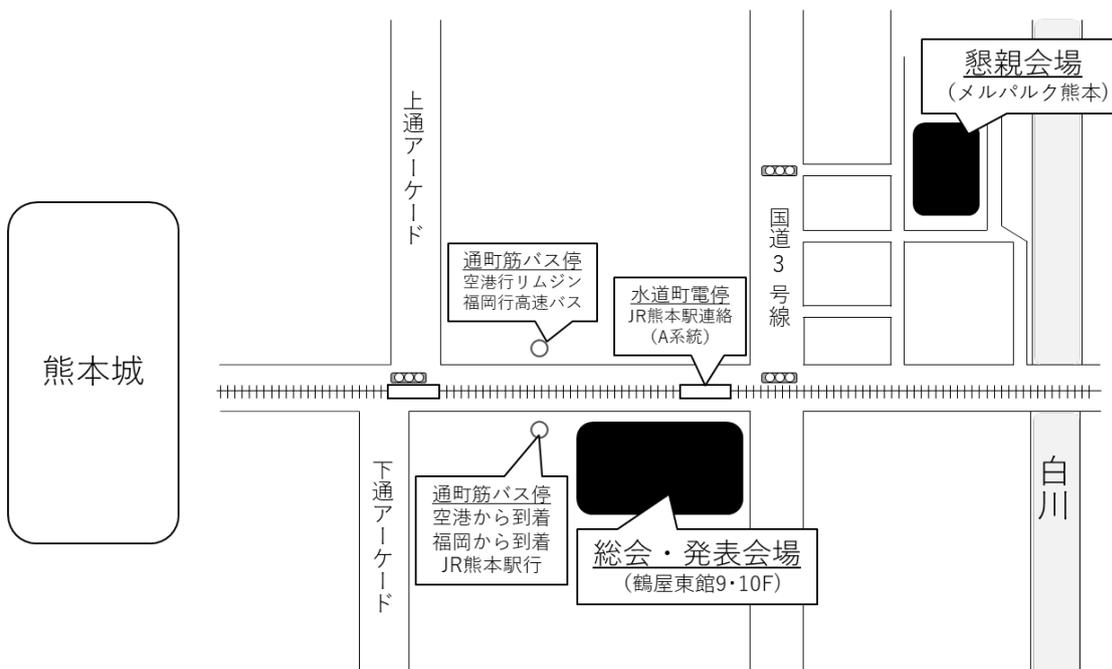
【九州自動車道】

益城熊本空港インターチェンジから 車で30分（約7.5km）

熊本インターチェンジから 車で30分（約7.8km）

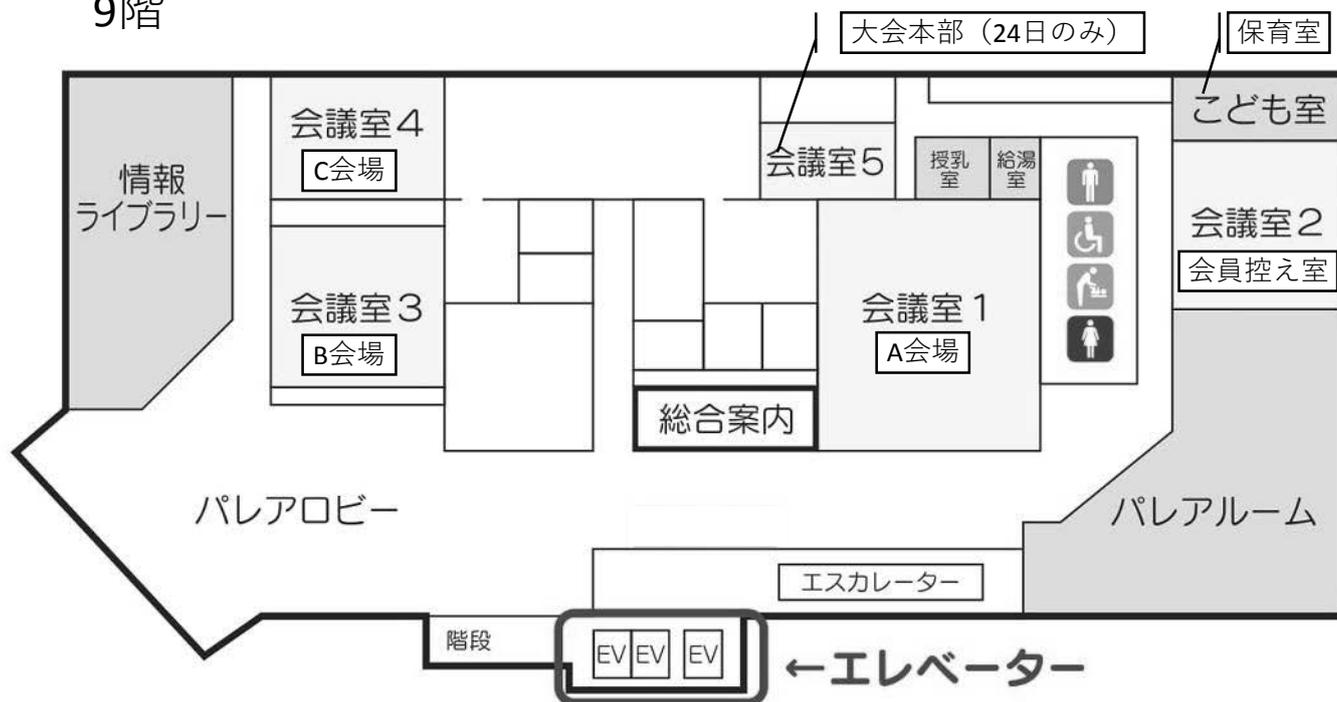
※提携の駐車場はありません。近隣の駐車場をご利用ください。

会場周辺図

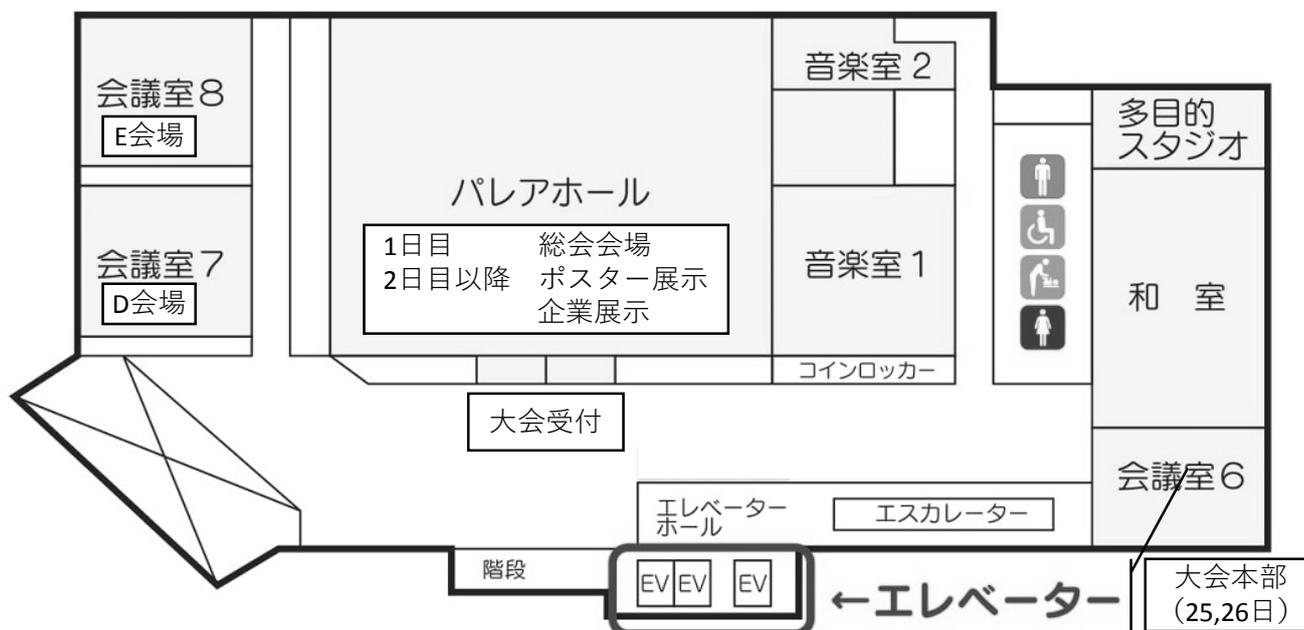


会場マップ（熊本県民交流館パレア）

9階



10階



企画シンポジウム

「植物遺伝資源利用における課題と今後の展開」

日時：3月25日（日）、13:00－15:00

場所：パレア A 会場（9F 会議室 1）

企画者：蝦名真澄（農研機構畜産研究部門）

植物遺伝資源の利用は農業の歴史と共に発展し、我が国の牧草・草地の利用の進展もその例外ではない。さらに近年では、植物遺伝資源の利用にあたり、多くの国際条約や法制度に沿った適切な制度の遵守が求められている。本企画シンポジウムでは、実際に広く海外植物遺伝資源の利用の最先端で活躍する演者の方から、その利用および今後の更なる発展を展望する。

（1）「海外植物遺伝資源の探索・収集・輸入・利用の実際

－ ソルガム・エリアンサスを例として －

奥泉久人（農研機構遺伝資源センター）

（2）「寒地型イネ科牧草の海外遺伝資源を利用した研究の現状と利用の展望

－ブルガリアにおける遺伝資源の探索収集－

眞田康治・内山和宏（農研機構北農研、畜産部門）

（3）「サトウキビ育種への遺伝資源利用の現状とさらなる可能性」

伊禮 信（沖縄県 農業研究センター）

（4）「ブラキアリア属牧草の南米および東南アジアにおける利用と特性」

下田勝久（農研機構畜産部門）

（5）「ゲノムワイドマーカーを用いたモデル化にもとづく遺伝資源の戦略的活用」

岩田洋佳（東京大学 大学院農学生命科学研究科）

（6）総合討論

企画集会

「周年親子放牧による高収益繁殖経営を目指して」

②周年親子放牧実践農家の取り組みと今後の地域展開方向

日時：3月25日（日）、13:00－15:00

場所：パレアD会場（10F 会議室7）

企画者：山本嘉人（農研機構畜産研究部門）

高齢化した繁殖農家の離農に伴う肉用子牛の出生頭数減少により子牛価格が高騰しており、肉用子牛の安定供給は喫緊の課題である。そこで、大幅な軽労化が見込める放牧メリットを最大限に活用した周年親子放牧技術により、畜舎を必要とせず初期投資を抑えることで新規参入も視野に入れた、省力低コストで収益力を高めた繁殖経営を確立させる必要があると考える。本企画集会では肉用子牛生産現場の現状を把握するとともに、「周年親子放牧」普及に向けて解決すべき課題の明確化、適用可能技術の検討等を行う。

（1）周年親子放牧による高収益繁殖経営

永松英治（大分県（有）富貴茶園）

（2）大分県における低コスト肉用牛繁殖経営の地域展開方向

金丸英伸（大分県 農林水産部 畜産技術室）

（3）技術紹介：親子放牧につながる哺乳延長が子牛の発育におよぼす効果

東山由美（農研機構東北農業研究センター）

（4）討論

小集会 1

「飼料作物育種における種子増殖の現状と課題 ④暖地型牧草における採種 状況の現状および課題と国内における採種技術と育種改良」

日時：3月26日（月）、13:00～15:00

場所：パレアD会場（10F 会議室7）

企画者：上山泰史（農研機構畜産研究部門）、蝦名真澄（農研機構畜産研究部門）、前原泰徳（家畜改良センター）、川口 優（家畜改良センター）

我が国で育成された飼料作物の種子の多くは、他の作物とは異なり海外で増殖されている。飼料作物の種子を農家に安価に安定供給するためには、海外増殖を見据えた採種性を考慮した品種開発が必要である。そのため飼料作物種子増殖の現状と課題を共有し、育種を行う上で対応すべき課題を再認識し関連の研究の推進につなげることを目的に本小集会を開催してきた。

第4回目となる本小集会は、暖地型牧草に焦点を当てて、その牧草形質、採種性、採種事情に加え、バイオマス分野において有用性が期待されているオギ等の遺伝資源の活用についても情報共有し、これらについての認識を深めることを目的として開催する。

（1）暖地型牧草の牧草形質と採種性

蝦名真澄（農研機構 畜産研究部門）

（2）熊本牧場における暖地型牧草の採種栽培について

前原泰徳（家畜改良センター）

（3）オギ遺伝資源の採種形質の特徴

眞田康治（農研機構 北海道農業研究センター）

司会 農研機構畜産研究部門 上山泰史

（4）意見交換

小集会 2

「教えて先輩！～産学官の就職、仕事・研究の苦労話～」

日時： 3月25日（日）、12:00～13:00

場所：パレア E 会場（10F 会議室 8）

企画者：吉原 佑（三重大学）

若手の会では、若手研究者の確保に向けた就職サポートを現在の最重要課題として位置づけています。草地学会の次世代を担う若手研究者の就職は、若手の会の活動を活性化するだけでなく、今後の運営を継続していくうえでも重要です。また近年、学会員の減少が続く学会全体の運営にも関わる重要な課題であると思われまます。

昨年の弘前大会において小集会「教えて先輩！～研究・就職の苦労話（ウラ話）～」を実施したところ、特に若手研究者から大きな反響がありました。研究者を目指す、または就職を考える時期にある学生にとって、仕事上の苦労話に高い関心があることを再認識しました。しかしながら、これまで学生が他研究機関の研究者から仕事上の苦労話を聞く機会は限られているのが現状です。研究職への興味、進路決定には、研究への興味に加え、研究機関への就職状況や職場での生活について知ること重要ではないでしょうか。そこで今年の小集会では、昨年の企画からさらに演者の幅を広げ、産学官それぞれの先輩研究者・技術者による「就職、仕事・研究の苦労話」を企画します。大学、県職員や民間企業における研究には様々な苦労話がつきものです。これから研究者を目指す学生に参考になることが多くあるものと期待しています。

【講演予定者】

(1) 北川まき（熊本県農業研究センター畜産研究所）

「（仮）熊本県職員への就職、普及員、研究員のお仕事」

(2) 井上浩一（（株）藤原製作所）

「（仮）公的機関との共同研究の実際、普及への道のり」

(3) 浅野桂吾（石川県立大学）

「教員一年生！～「研究と教育」を経験して～」

学会大会における求職中のポスドク・学生の就職支援

日本草地学会 若手の会

若手の会では、『若手会員の研究職への就職サポート』を実施しています。本活動では、求職側（ポスドクや博士・修士学生等）と求人側（研究所・大学・企業等）の交流の場である学会大会において、就職側が求職中であることを、大会期間中のリボン装着や講演要旨、発表資料内への明示によってアピールすることで、若手会員の就職に役立ててもらえるものと期待しています。またオプションとして、求職者本人から多くの大会参加者に直接アピールできる「アピールタイム」を、総会の前に1人あたり1分間ご用意しています。活動内容の詳細は下記をご覧ください。

本活動への応募は、大会エントリーページの下方（若手賞申し込みの下）、『「研究職求職中」を要旨に明示する』の項目からお申し込みいただけます。また同時に選択いただく「現在のポスト、学年」、「アピールタイムに申し込む」の情報をもとに、リボンやプログラムに記載するシンボルを割り当てます。

若手会員の就職サポート内容

1. 求職中であることを示すリボン（もしくはバッジ）を装着

- 学会期間中に求職中であることを示すリボンを装着することで、求人側の皆様に明示する。
- 求職の状況（PDやD3などすぐに職が必要な人、D1、D2やマスターなどで急ぎはしないが将来的に希望する人）などに応じて、リボンの色を使い分ける（表1）。

2. プログラムに求職中であることを示すシンボルを追加

- プログラム中の発表課題番号の右（もしくは左）の分かりやすい箇所に、「求職中の学生・ポスドク」であることが分かるシンボルを示す（表1）。

3. 発表資料（プレゼン・ポスター）に求職中ロゴを掲示

- プレゼン発表資料（PDF）やポスターに、求職中ロゴを入れる（表1）。

表1 求職中であることを明示する方法

明示方法	求職の状況			
	ポスドク	博士課程3年	博士課程1-2年	修士課程
1. リボン	赤	ピンク	黄	青
2. プログラム	★	☆	◎	●
3. 発表資料用 ロゴ				

4. アピールタイムの設置

- 総会前に求職中のポスドク・学生が、発表課題番号と研究概要、個性をアピールする時間を設置する。各1分の持ち時間とする。求人側の皆様に、興味を持った発表課題の話を聞きに会場へ足を運んでいただくことを期待する。

高校生研究発表会のご案内

草地学会教育委員会

本大会において高校生の研究発表会（ポスター発表）を開催します。日頃の校内学習やプロジェクト学習などの成果を学会という場で発表し、大学や研究所の研究者との議論や交流を通して、草地および草原とそれに関わる諸学問や活動に対する理解や関心を深めてもらうことが本企画の目的です。

下記に日時と発表演題および発表者名・所属を記載しました。一般演題と同様に、コアタイムに高校生がポスターの前でそれぞれ発表・説明します。皆様の積極的なご参加と今後の活動の参考や励みになるようなご意見やご助言をお待ちしております。

日時：3月26日（月）11：00～12：00

場所：ポスター会場（10階 パレアホール）

ポスター番号：P82～84

P82：

採草地放牧を用いた球磨型繁殖牛飼養管理技術の確立を目指して

○早田友紀・椎葉悠莉乃・小田春希・豊永杏李・藤本梨沙・續山晃大・福屋直希（熊本県立南稜高等学校）

P83：

エコフィードを利用した環境に優しい養豚経営

○檜橋真奈美・山崎奈々美（熊本県立熊本農業高校）

P84：

反射光スペクトルによる草地の植生構造および乾物草量と牧草体成分の推定

○阿部安寿志¹・佐藤正義¹・池本 可¹・市川遥香¹・酒井岳琉¹・高原 涼¹・道端成美¹・伊藤美憂¹・近藤幸汰¹・佐々木海人¹・田中優翔¹・萩原奎太¹・村田 陸¹・佐々木章晴¹・内田 勝¹・成瀬延康²

（¹北海道岩見沢農業高等学校・²滋賀医科大学）

口頭発表プログラム 3月24日

会場 (10階 ホール)

時間	座長	優秀若手発表賞発表	
13:00	吉原 佑	Y01	温暖化の影響を評価する寒地型牧草生産モデルのモデル選択とその検証 ○樽見恵梨奈1・築城幹典2・森 昭憲3 (1岩手大院連農・2岩手大農・3農研機構畜産研究部門)
13:15		Y02	Use of hand-held devices to estimate grass biomass of pasture in Toimisaki, Japan ○Weiru Song1・Xiaoqin Li1・Rende Song2・Guomei Li3・Aya Nishiwaki1 (1University of Miyazaki・1University of Miyazaki・2Yushu yak Comprehensive Research Station・3Yushu Prairie Center, China)
13:30		Y03	ウシの糞塊が草地土壌の物理性と化学性に及ぼす影響 (予報) ○尹 麗瑛・宍戸哲郎・小倉振一郎 (東北大)
13:45		Y04	ウシにおける植生識別能力の評価：緑草の有無の識別に対する異なる感覚の寄与 ○草竹理子・山崎未園・安在弘樹・平田昌彦 (宮崎大)
14:00		休憩	
14:15	井上 秀彦	Y05	リンゴジュース粕をイネWCSに混合して調製したサイレージの化学組成、発酵品質及び嗜好性に関する研究 ○梅木直哉1・姜 東鎮2・鈴木裕之2・松崎正敏2 (1岩手大院・2弘前大)
14:30		Y06	山形県庄内地域における極短穂WCS用イネ品種・系統の適応性の評価 ○福室絢大1・松山裕城1・堀口健一1・中込弘二2・松下 景3・浦川修司1 (1山形大・2西日本農研・3中央農研)
14:45		Y07	飼料用水稲の茎と根における出穂後の非構造化炭水化物の蓄積 ○太田怜奈・近藤 誠・関谷信人 (三重大院生物資源)

口頭発表プログラム 3月25日

A会場 (9階 会議室1)				B会場 (9階 会議室3)			
時間	座長	2. 造成・管理・栽培		時間	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	
9:30	出口新	201	フィールドピー（エンドウ）およびフィールドピーン（ソラマメ）導入品種の北海道東部に於ける生育特性 ○安達美江子（ホクレン訓子府実証農場）	9:30	小倉振一郎	301	ウシにおける植生識別能力の評価：緑草と枯死草の識別に対する異なる感覚の寄与 ○草竹理子・山崎未園・安在弘樹・平田昌彦（宮崎大）
9:45		202	異なる窒素追肥条件下における子実用トウモロコシに対する葉位別摘葉処理が収量および収量関連形質に及ぼす影響 ○義平大樹1・宋粮1・長岡詩帆1・土井希晃1・中島大賢2・佐藤智宏3・村井祐介4（1酪農大・2北大・3パイオニアエコサイエンス・4カネコ種苗）	9:45		302	電気柵を活用した親子分離草地 ○池田堅太郎・藤森雅博・東山由美・小松篤司（東北農研）
10:00	休憩		10:00	303		市販の運動強度計を用いた放牧育成牛の採食行動の1シーズン連続測定 ○八木隆徳（農研機構北農研）	
10:15	眞田康治	203	天北地方における寒地型牧草2草種の耐乾性の差異と、生産性および飼料品質の比較 ○岡元英樹1・安 萍2・石井一成3・古館明洋4・大橋優二4・笹木正志5・松原哲也5（1道総研天北支場（現：道総研上川農試）・2鳥取大学乾燥地研究センター・3鳥取大学乾燥地研究センター（現：千葉県庁）・4道総研天北支場（現：道総研中央農試）・5道総研天北支場）	10:15	休憩		
10:30		204	ペレニアルライグラス混播採草地の特性 4. 造成後利用1年目の収量水準と植生変化 ○須藤賢司1・大塚博志2（1北農研・2ホクレン）	10:30	座長	5. 生理・形態・病理・昆虫	
10:45		205	根釧地域におけるペレニアルライグラスの秋の刈取り管理が翌春の欠株率および収量に与える影響 ○角谷芳樹・牧野 司（道総研根釧農業試験場）	10:45	佐藤広子	501	ソルガム茎葉形質のQTL解析 ○川東広幸1・米丸淳一1・北原茉依2・春日重光2（1農研機構 次世代作物センター・2信州大学 農学部）
10:45		502	低フィチンダイズの育成とその特性および生産性 ○実岡寛文・秦 東・若林幹太・赤堀 巧（広島大生物圏科学研究科）				

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月25日

C会場 (9階 会議室4)				D会場 (10階 会議室7)			
時間	座長	シニア		時間			
9:30	市戸 万丈	S01	オーチャードグラスの出穂・開花-池谷文夫氏の研究成果紹介- ○雑賀 優 (元岩手大学)	9:30			
9:45		S02	海洋草食ほ乳類ジュゴンの栄養要求 ○後藤正和	9:45			
10:00		S03	海洋草食ほ乳類ジュゴンの消化特性 ○後藤正和	10:00	座長	1. 草地生態・システム分析・ 緑地環境	
10:15		S04	食・農分野で活躍する人材育成プログラムの構築に携わって ○川村 修 (元 宮崎大)	10:15	安田 泰輔	101	葉緑体DNAの塩基配列に基づくリードカナリーグラスの栽培品種と在来系統の識別 ○芝池博幸1・江川知花1・上山泰史2 (1農研機構・農業環境変動研究センター・2農研機構・畜産研究部門)
10:30	休憩		10:30	102		空撮画像を利用したチモシー採草地におけるシバムギの判別 ○坂上清一1・渡辺也恭2・八木隆徳1・杉戸克裕1・森 公象3・伴苗行弘3 (1農研機構北農研・2農研機構西日本農研・3家畜改良センター十勝)	
10:45	S05	昭和から平成への飼料調製機械開発研究 ○市戸万丈 (畜草研・草地試)	10:45	103		ミサキウマの排糞による種子散布について ○西脇亜也・桑畑成美 (宮崎大)	
11:00	後藤 正和	S06	九州中部高原地域の寒地型牧草地をめぐる諸問題 ○増田泰久 (元九大農)				
11:15		S07	草地の泥濘化とその対策、ニュージーランド農家の知恵 ○宮脇 豊 (サージミヤワキ株式会社)				
11:45		S08	第9回MBFTと河西回廊ゴビ砂漠草地ワークショップの概要 ○中川 仁 (浜松ホトニクス)				

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月25日			
E会場 (10階 会議室8)			
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用	
9:30	大越安吾	401	泌乳牛への生稲ワラサイレージの給与方法の検討 ○小橋有里1・北村 亨2 (1新潟農総研畜研センター・2雪印種苗 (株))
9:45		402	フレキシブルコンテナに破碎穀実を滞りなく詰めるための破碎物振り分け作業体系 ○魚住 順・嶺野英子・河本英憲・神園巴美 (東北農研)
10:00		403	大型破碎機とフレコンラップ法を用いたトウモロコシ子実サイレージの迅速調製体系の実証 ○嶺野英子・魚住 順・河本英憲・神園巴美・宮路広武・長谷川啓哉・出口 新・内野 宙 (東北農研)
10:15		404	フレコンラップ法を用いた粳米および子実用トウモロコシの一時貯蔵技術 ○嶺野英子1・遠野雅徳2・魚住 順1・河本英憲1・神園巴美1・内野 宙1・出口 新1 (1東北農研・2畜産研究部門)
<p>口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。 時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。</p>			

口頭発表プログラム 3月26日

A会場 (9階 会議室1)				B会場 (9階 会議室3)			
時間	座長	2. 造成・管理・栽培		時間			
9:00	内野宙	206	飼料用イネの乾田不耕起直播栽培の実証 (第2報) ○小林富雄1・塚本茂善2・水流正裕1・後藤和美1 (1長野畜試・2革新工学センター)	9:00			
9:15		207	簡易耕によるアルファルファ (<i>Medicago sativa</i> L.) 単播草地の造成 ○水流正裕・浅井貴之・有野陽子 (長野畜試)	9:15			
9:30		208	国産汎用コンバインによるトウモロコシ実の収穫作業能率と収穫係数 ○浅井貴之・三木一嘉 (長野畜試)	9:30	座長	7. 土壌肥料	
9:45		休憩		9:45	岡元英樹	701	北海道天北地域の採草地における土壌還元反応と乾き易さの関係 ○有田敬俊・二門 世 (道総研 上川農試天北支場)
10:00	義平大樹	209	不耕起栽培への冬作被覆作物の導入がトウモロコシの収量に及ぼす影響 ○出口 新・内野宙・魚住 順・嶺野英子・河本英憲 (農研機構 東北農研)	10:00		休憩	
10:15		210	根釧地域の飼料用トウモロコシ極早生品種における適正栽植密度 ○林 拓2・牧野 司1・酒井 治1・三枝俊哉3 (2根釧農試 現上川農試天北支場・1根釧農試・3根釧農試 現酪農学園大)	10:15	座長	3. 放牧・家畜管理・行動	
10:30		211	関東南部におけるTDN収量が多取となるサイレージ用トウモロコシ二期作の栽培体系 ○折原健太郎1・秋山 清2・辻 浩之1・森村裕之1・齋藤直美1 (1神奈川畜技セ・2神奈川県畜産課)	10:30	池田堅太郎	304	栃木県南部におけるペレニアルライグラスを用いた定置放牧下での被覆尿素利用評価 ○平野 清・中尾誠司・進藤和政・下田勝久・井出保行・山田大吾 (農研機構畜産研究部門)
10:45		212	飼料用ダイズの安定多収栽培技術の開発 ーリピングマルチとして導入するイタリアンライグラス適品種の検討ー ○内野宙・魚住 順・出口 新・河本英憲・嶺野英子・神園巴美 (東北農業研究センター)	10:45		305	連続放牧を活用した乳牛飼養技術の開発 4. 濃厚飼料無給与牛とトウモロコシサイレージ給与牛の産乳性 ○須藤賢司・上田靖子・朝隈貞樹・青木康浩 (北農研)
						306	トールフェスクは土壤中の交換性カリが低下しても放射性セシウム濃度の上昇が小さい ○梶村恭子1・大槻和夫1・渋谷 岳1・山田大吾1・吉田由里江2・松波寿弥2 (1農研機構畜産部門・2農研機構東北農研)
休憩							
13:00	平野清	213	熊本県におけるイタリアンライグラスの播種時期の違いが収量及び硝酸態窒素濃度に及ぼす影響 (第1報) ○北川まき1・林田雄大1・鶴田 勉1・大川夏貴2 (1熊本県農研セ畜研・2熊本県北阿蘇振興局)				
13:15		214	Year-round grazing potential of dwarf napiergrass pasture in southern Kyushu (南九州の矮性ネピアグラス草地における周年放牧利用の可能性の検討) Hamid Kadwal1・Yasuyuki Ishii2・○Ayaka Goto2・Li Bo Kun3・Sachiko Idota2・Mitsuhiro Niimi2・Genki Ishigaki2・Kiichi Fukuyama2 (1Interdisciplinary Graduate School of Agriculture and Engineering, University of Miyazaki・2Faculty of Agriculture, University of Miyazaki・3Graduate School of Agriculture, University of Miyazaki)				
13:30		215	エンバク夏播き栽培における播種時期および栽植様式がヒエとの競合におよぼす影響 ○加藤直樹・服部育男 (農研機構九州農研)				

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分 (一鈴: 10分、二鈴: 12分、三鈴: 14分30秒) です。時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月26日

C会場 (9階 会議室4)				D会場 (10階 会議室7)			
時間	座長	6. 育種		時間	座長	1. 草地生態・システム分析・緑地環境	
9:00	久保田 明人	601	準高冷地において選抜・育成したライムギ系統の越冬性評価 ○春日重光1・大久保孝郎1・小山内光輔2・関根平2・野宮桂2 (1信大農学部・2雪印種苗株式会社)	9:00	川村 健介	104	シバ型放牧草地における放射性セシウムの動態とモデル化 ○山下大貴1・築城幹典1・桐村恭子2 (1岩手大・2農研機構畜産研究部門)
9:15		602	ソルガム新品種「東山交37号」の育成と特性 ○清沢敦志1・水流正裕1・後藤和美1・清水一2・石川靖之2・折原健太郎3・今雪幹也4・田中勝啓4 (1長野畜試・2カネコ種苗(株)・3神奈川畜試・4香川畜試)	9:15		105	放棄初年目の夏緑雑草畑草地におけるバイオマスと種構成の経時的変化を測る ○塩見正衛1・陳俊2・菅原彩1・山村靖夫1 (1茨城大・2西北農林科技大)
9:30		休憩		9:30		106	投入資源量への反応曲線としてのMitscherlich曲線 ○塩見正衛1・松中照夫2 (1茨城大・2酪農学園大)
9:45	603	いもち病抵抗性集団に由来する年内出穂型イタリアンライグラス母系の夏播き栽培における生育特性 ○桂真昭・荒川明・松岡誠・波多野哲也・高井智之・上床修弘 (九沖農研)	9:45	107		外来牧草の自然公園における定着規模と農業利用との関係：北海道における検討 ○江川知花1・大澤剛士1・西田智子2・古川泰人3 (1農研機構 農環研センター・2農研機構本部・3酪農学園大)	
10:00	秋山 征夫	604	暖地型イネ科牧草の新しいゲノム編集技術確立に向けた不定胚培養法の検討 ○権藤崇裕1・山田智仁2・明石良2 (1宮崎大フロンティア・2宮崎大学農学部)				
10:15		605	寒冷地・温暖地向け高消化性オーチャードグラス系統の選抜とその特性 ○内山和宏1・清多佳子1・上山泰史1・荒川明2・水野和彦1 (1農研機構・畜産研究部門・2農研機構・九州沖縄農業研究センター)				

口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分（一鈴：10分、二鈴：12分、三鈴：14分30秒）です。時間厳守。また、プロジェクトが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。

口頭発表プログラム 3月26日			
E会場 (10階 会議室8)			
時間	座長	4. 飼料調製加工・貯蔵・利用	
9:00	喜田環樹	405	静電容量式水分測定器と定荷重装置を用いた牧草含水率推定手法の開発 ○川出哲生 (農研機構 畜産部門)
9:15		406	ラップサイロを対象とした電磁波伝送特性非破壊測定装置の試作 ○松尾守展1・昆 盛太郎2・長田 享1・松野更和1・滝元弘樹1・志藤博克1 (1農研機構・革新工学センター・2産総研)
9:30		407	バンカーサイロに貯蔵した牧草サイレージの排水性に影響する要因 ○大越安吾 (道総研根拠農試)
9:45		休憩	
10:00	嶮野英子	408	乾燥調製の温度および期間が緑茶粕の α -トコフェロール含量および飼料成分含量に及ぼす影響 ○深川 聡・高木英恵・嶋澤光一 (長崎農技セ)
10:15		409	ソルガム新品種ターザンのサイレージ品質に及ぼす雑草混入の影響 ○井戸田幸子1・小谷莉子1・本郷泰充1・飛佐学1・石井康之1・西村慶子2・有馬典男2 (1宮崎大・2宮崎県畜産試験場)
10:30		410	早刈り、3回刈りで収穫したオーチャードグラス・ペレニアルライグラス混播牧草サイレージの飼料特性 ○矢島 昂・青木康浩・宮地 慎・多田慎吾 (北農研)
休憩			
13:00	小橋有里	411	収穫方法および乳酸菌・酵素製剤の添加がアルファルファロールペールサイレージの品質に及ぼす影響 (第2報) ○浅井貴之1・水流正裕1・有野陽子1・篠田英史2・本間 満2 (1長野畜試・2雪印種苗)
13:15		412	飼料用米の刈取時期の違いが粳米サイレージの栄養成分に与える影響 ○林田雄大1・大川夏貴2・北川まき1・武 嘉昭2・鶴田 勉1 (1熊本県農研セ畜県・2熊本県北阿蘇振興局)
13:30		413	予乾牧草サイレージの好気的変敗を抑制する乳酸菌 ○本間 満1・谷口大樹1・北村 亨1・田辺裕司2・服部育男3 (1雪印種苗(株)・2岡山県畜産研・3農研機構九沖農研)
口頭発表は講演時間12分、質疑応答3分 (一鈴:10分、二鈴:12分、三鈴:14分30秒) です。時間厳守。また、プロジェクターが不調の場合には、講演要旨を用いて発表してください。			

ポスター発表 (10階 ホール)

奇数番号コアタイム: 3月25日 11:00~12:00

偶数番号コアタイム: 3月26日 11:00~12:00

1. 草地生態・システム分析・緑地環境

P01	夏播き牧草の被度に及ぼす草品種と刈取りの影響 ○東山雅一・魚住 順・内野 宙・出口 新・嶺野英子 (農研機構東北農業研究センター)
P02	除染作業をした後の傾斜畑における秋播き牧草種の植物被度への影響 ○東山雅一・好野奈美子・浅井元朗・太田 健 (農研機構東北農業研究センター)
P03	3軸加速度センサーを用いた放牧牛の姿勢及び行動の解析 ○板野志郎1・遠藤理弘2・田中繁史1 (1新潟大・2競走馬リハビリセンター)
P04	冬季におけるモンゴル放牧ヒツジの摂取エネルギー推定 ○吉原 佑1・古戸翔也1・Luo dian2・伊藤健彦3・梅村和弘4・篠田雅人2 (1三重大・2名古屋大・3鳥取大・4北農研)
P05	UAV空撮画像を用いた採草地におけるクサヨシ繁茂場所の検出 ○吉利怜奈1・渡辺也恭1・林 志炫1・坂上清一2・八木隆徳2・森 公象3 (1西農研・2北農研・3家畜改良センター十勝牧場)
P06	地表面分光反射計測による植物種多様性の高い放牧地の草量推定 ○川村健介1・小倉振一郎2・八代田真人3・林 志炫4・吉利怜奈4・安田泰輔5・黒川勇三6・小櫃剛人6 (1国際農研・2東北大・院・農・3岐阜大・応用生物・4西日本農研・5富士山研・6広島大・院・生物圏)
P07	山梨県における侵略的外来種アレチウリの分布と侵入予測 ○安田泰輔1・渡邊 修2・川村健介3 (1山梨県富士山科学研究所・2信州大学学術研究院農学系・3国際農林水産業研究センター)
P08	半自然草地におけるドローン空撮画像の可視化手法の検討: 群落高の色相への変換 ○安田泰輔・杉田幹夫 (山梨県富士山科学研究所)
P09	UAV搭載マルチスペクトルカメラを利用した放牧管理法 ○林 志炫1・渡辺也恭1・吉利怜奈1・梅田直円2 (1農研機構西日本農業研究センター・2農研機構本部)

2. 造成・管理・栽培

P10	ディジットグラスおよびバヒアグラスの越冬性 ○大谷一郎・堤 道生・寺井恵子 (農研機構西日本農研)
P11	飼料用トウモロコシ不耕起栽培を活用したアレチウリ防除技術 ○佐藤 真1・山形広輔2・尾張利行3 (1岩手畜研・2岩手県農林水産部畜産課・3岩手農大)
P12	道央とオホーツク内陸部におけるガレガの夏季播種と刈取り危険帯及び栽培実態調査 ○廣井清貞1・佐藤広子1・大塚博志2・安達美江子2・竹田芳彦2・岩淵 慶2・奥村健治1 (1農研機構 北海道農研・2ホクレン)
P13	トウモロコシのミルクライン降下程度と子実水分含量の推移 ○佐藤 尚・黄川田智洋 (北海道農業研究センター)
P14	8月の北海道における蜜源確保に向けたクローバ開花に有効な寒地型牧草地の植生管理 ○小路 敦 (農研機構・北農研)
P15	オーチャードグラスとペレニアルライグラスの混播栽培における播種割合の検討 3. 札幌における5年間の試験結果 ○真田康治1・安達美江子2・道場和也2・竹田芳彦2・田村健一3・田瀬和浩1・秋山征夫1 (1農研機構北海道農研・2ホクレン・3現農水省農林水産技術会議事務局)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月26日の12:00から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されている
ポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (10階 ホール)

奇数番号コアタイム：3月25日 11:00~12:00

偶数番号コアタイム：3月26日 11:00~12:00

2. 造成・管理・栽培

P16	オーチャードグラス「えさじまん」とペレニアルライグラスの混播栽培 2. 採草放牧兼用における利用2年目の生育特性 ○眞田康治1・田村健一2・秋山征夫1 (1農研機構北海道農研・2現農水省農林水産技術会議事務局)
P17	サイレージ用トウモロコシ (<i>Zea mays</i> L.) の畝立て播種における留意点 ○菅野 勉・森田聡一郎・赤松佑紀・須永義人・住田憲俊・川地太兵 (農研機構畜産研究部門)
P18	根釧地域におけるチモシー、メドウフェスク、オーチャードグラスの生育に対する播種時期および播種量の影響 ○松本武彦 (道総研根釧農試)
P19	栽植密度と稔実初期の台風がファジービーンの子実生産に及ぼす影響 ○飛佐 学1・上野詩織1・井戸田幸子1・石井康之1・西村慶子2・大木場 格2 (1宮崎大農・2宮崎畜試)
P20	機械収穫に適した子実用トウモロコシ品種の条件検討 ○森田聡一郎・赤松佑紀・住田憲俊・阿部佳之・菅野 勉 (農研機構畜産研究部門)
P21	RTK-GPSと自動操舵装置を活用したトウモロコシ不耕起播種における直進性・等間隔性の確保 ○高野 浩・太田耶子・二俣 翔・佐藤克昭 (静岡畜技研)
P22	ローズグラスリビングマルチ体系による粗飼料用ダイズの収量性 ○石垣元気1・瓜生好絵2・新美光弘1・明石 良1・福山喜一1 (1宮崎大・2宮崎大院)
P23	福島の飼料稲生産組織へのトウモロコシ生産技術導入 ○住田憲俊・阿部佳之 (農研機構畜産部門)
P24	福島県の営農再開酪農場における飼料作物生産技術実証 - 牧草中の放射性セシウム濃度とカリウム濃度の推移 - (第2報) ○住田憲俊1・天羽弘一2・小島陽一郎1・阿部佳之1 (1農研機構畜産部門・2農研機構革新工学研)
P25	草地用ロボットトラクタによる牧草生産技術の開発 2. 草地作業におけるロボットトラクタの走行特性 ○関口建二1・横山和寿2・白藤大貴2・岩瀬卓也2・須藤賢司3・渡辺也恭4・鎌形哲稔5 (1道総研十勝農試・2ヤンマー(株)・3農研機構北農研・4農研機構西日本農研・5国際航業(株))
P26	ペレニアルライグラスにおける道東での越冬性に関連する要因 ○佐々木 亨1・平田 愛1・杉田紳一2・角谷芳樹3・佐藤公一4・藤井弘毅5 (1日草種協 北海道支所・2日草種協 飼作研・3根釧農試・4道総研畜試・5北見農試)
P27	チカラシバの種子による繁殖抑制には出穂から2週間以内の刈払いが有効である ○北川美弥 (農研機構畜産部門)
P28	不耕起播種機による草地更新の省力化 ○塩沢道明1・加藤信夫1・土方浩嗣2・大野和之1・川口 優1・加藤知寿子1・畑中巧也1・梅澤伸弥1 (1家改セ茨城牧場長野支場・2家改セ十勝牧場)
P29	3Dモデルを用いたトウモロコシの収量および倒伏度合いの調査法の予備検討 ○二門 世・林 拓 (道総研上川農試天北支場)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月26日の12:00から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (10階 ホール)

奇数番号コアタイム : 3月25日 11:00~12:00
偶数番号コアタイム : 3月26日 11:00~12:00

3. 放牧・家畜管理・行動

P30	高糖含量オーチャードグラスの嗜好性 ○梅村和弘・眞田康治 (北農研)
P31	植物種多様性の高い放牧地におけるウシの血中養分の特徴 ○小倉振一郎1・高見澤真太1・八代田真人2・川村健介3・中野美和4・宍戸哲郎1 (1東北大学大学院農学研究科・2岐阜大学応用生物科学部・3国際農業研究センター・4農研機構西日本農業研究センター)
P32	ウェアラブルカメラを用いた放牧牛の摂食行動モニタリング: 多様な植生下での放牧牛の摂食様式の解析 ○二階莉紗1・八代田真人2・宍戸哲郎1・小倉振一郎1 (1東北大学大学院農学研究科・2岐阜大学応用生物科学部)
P33	放牧地の植物種数の違いが放牧ヤギの栄養摂取および反芻胃内消化率に及ぼす影響 田宮早恵1・○八代田真人1・土井和也2・中嶋紀寛2・川村健介3・小倉振一郎4 (1岐阜大学応用生物科学部・2岐阜大学連合大学院農学研究科・3国際農林水産業研究センター・4東北大学大学院農学研究科)
P34	Fixed-time data segmentation and behavior classification of pasture-based livestock: Enhancing performance using random forest (RF) ○Gou Xiaowei1・Atsushi Tsunekawa2・Peng Fei3・Zhao Xueyong4・Li Yulin4・Lian Jie4 (1The United Graduate School of Agricultural Sciences・2Arid Land Research Center・3International Platform for Dryland Research and Education, Tottori University・4Naiman Desertification Research Station, Northwest Institute of Eco-Environment and Resources, Chinese Academy of Sciences)
P35	Nitrogen utilization by Simmental crossbred calves fed with a mixed oat- and alfalfa-hay-based diet ○Wuchen DU1・Atsushi TSUNEKAWA3・Fujiang HOU4・Toshiyoshi ICHINOHE1・Nobuyuki KOBAYASHI5・Fei PENG 2 (1UGSAS, Tottori University・3ALRC, Tottori University・4Lanzhou University・5Shimane Univeristy・2IPDRE, Tottori University)
P36	耕作放棄地への5年間のヤギの放牧が植物の多様性に及ぼす影響 ○土井和也1・田宮早恵2・中嶋紀寛1・八代田真人3 (1岐阜大・院・連農・2岐阜大・院・応生・3岐阜大・応生)
P37	放牧酪農家に対するイアコンサイレージ給与が夏季の乳生産に及ぼす影響 ○三谷朋弘1・朝隈貞樹2・上田靖子2・青木康浩2・上田宏一郎3・大下友子2 (1北大FSC・2北農研センター・3北大院農)
P38	中山間地耕作放棄地放牧がヒツジのストレス・免疫に与える影響 ○浅野桂吾・高松英里奈・沼田 華・新田桃代・石田元彦 (石川県大)
P39	めん羊によるリードカナリーグラス茎葉部の採食特性 ○時田昇臣・池上 瞳・市川ひとみ・大多和章子・門岡 航・山崎世使子 (日獣大)

4. 飼料調製加工・貯蔵・利用

P40	籾米サイレージを用いた黒毛和種繁殖牛の分娩前後の飼料コスト低減 ○河本英憲・志水 学・米内美晴・伊賀浩輔 (東北農研)
P41	Brix糖度計を用いた極短穂品種「たちあやか」における糖分含量の簡易推定法 ○森田昌孝1・阿部脩平2・吉田修一2・菅原賢一1 (1宮城畜試・2宮城古川農試)
P42	紫黒米の給与がヒツジの飼料消化性、第一胃内性状および酸化ストレスマーカーに及ぼす影響 ○細田謙次1・宮地 慎2・松山裕城3 (1九州沖縄農業研究センター・2北海道農業研究センター・3山形大学)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月26日の12:00から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されている
ポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (10階 ホール)

奇数番号コアタイム: 3月25日 11:00~12:00

偶数番号コアタイム: 3月26日 11:00~12:00

4. 飼料調製加工・貯蔵・利用

P43	ワカメサイレージの発酵品質と化学組成に及ぼす稲わら、飼料用米およびビール粕の混合割合と乳酸菌の添加効果 ○大竹秀男1・原 楓1・田川伸一2・金藤克也3 (1宮城大食産・2清水港飼料(株)・3さとうみファーム)
P44	サイレージから放散されるアンモニアガスを利用した発酵品質評価手法の開発 ○中川 脩1・池田四郎1・海福雄一郎1・中村亜衣1・折原健太郎2 (1株式会社ガステック・2神奈川県畜産技術センター)
P45	無破碎籾米の飼料用調製作業技術およびコストの検討 ○井上秀彦・川出哲生・遠野雅徳・神谷裕子・江口研太郎 (農研機構畜産研究部門)
P46	トウモロコシ可溶性炭水化物測定に対する改変アンスロン法の適応 ○篠田英史 (雪印種苗株式会社)
P47	本邦亜熱帯地域におけるソルゴー型ソルガムの生育段階毎のサイレージ特性 ○今井裕理子1・赤嶺 光2・山本菜月2・川本康博2 (1ヤンマー(株)・2琉大農)
P48	<i>Lactobacillus diolivorans</i> SBS0007株添加がとうもろこしサイレージの開封後の発熱に及ぼす影響とその要因解析 ○本間 満2・西道由紀子1・窪田明日香1・谷口大樹2・北村 亨2 (1道総研根釧農試・2雪印種苗(株))
P49	実規模サイロにおける <i>Lactobacillus diolivorans</i> SBS0007株添加がとうもろこしサイレージの酢酸含量および開封後の発熱に及ぼす影響 ○西道由紀子1・窪田明日香1・本間 満2・柴山草太2・北村 亨2 (1道総研根釧農試・2雪印種苗(株))
P50	<i>Lactobacillus diolivorans</i> SBS0007株の添加が細断型ロールペールサイレージの酵母数および好氣的条件下での発熱に及ぼす影響 ○窪田明日香1・西道由紀子1・本間 満2・北村 亨2 (1道総研根釧農試・2雪印種苗(株))
P51	<i>Lactobacillus diolivorans</i> SBS0007株のとうもろこしサイレージへの添加が乳牛の自由採食量およびTMR調製後の発熱に及ぼす影響 ○西道由紀子1・窪田明日香1・本間 満2・北村 亨2 (1道総研根釧農試・2雪印種苗(株))
P52	大規模生産地におけるイアコーンサイレージ収量の圃場間変動 ○根本英子1・大下友子1・上田靖子1・矢島 昂1・青木康浩1・浦 敏男2 (1農研機構北農研・2(有)ジェネシス美瑛)
P53	WHITE ROT FUNGI TREATMENT TO BAGASSE RESIDUE UNDER UNCONTROLLED TEMPERATE CONDITION ○Stanford Muyila1・花田正明1・村井慎平1・山川政明2 (1帯広畜大・2道総研畜試)
P54	暖地型イネ科牧草リビングマルチ体系による飼料用ダイズ生産技術の開発—ローズグラスと混播した飼料用ダイズを調製したサイレージの発酵品質— ○新美光弘1・石垣元気1・寺田 優1・橋本芽依1・瓜生好絵2・明石 良1・石井康之1・福山喜一1 (1宮崎大農・2宮崎大院農)
P55	ハイモイスターシェルドコーンによる圧ペントウモロコシの代替が泌乳牛の消化率、窒素出納および飼養成績に及ぼす影響 ○多田慎吾・青木康浩・宮地 慎・矢島 昂・上田靖子 (農研機構北農研)
P56	乳酸菌製剤を添加したトウモロコシサイレージの発酵品質および泌乳牛における養分摂取量、栄養価ならびに乳生産に及ぼす影響 ○西村慶子1・榊 真由子2 (1宮崎畜試・2ラレマンドバイオテック(株))
P85	飼料用大豆の品種別の成分含量およびサイレージ適性評価 ○神園巴美・嶺野英子・内野 宙・魚住 順・出口 新・河本英憲 (東北農業研究センター)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月26日の12:00から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されている
ポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (10階 ホール)

奇数番号コアタイム: 3月25日 11:00~12:00

偶数番号コアタイム: 3月26日 11:00~12:00

5. 生理・形態・病理・昆虫

P57 湛水処理がトウモロコシおよびテオシントの根系およびリン吸収に及ぼす影響
○赤松佑紀・間野吉郎・森田聡一郎・菅野 勉 (農研機構畜産研究部門)

P58 トウモロコシ根腐病菌 (*Pythium arrhenomanes*) の簡易凍結保存の試み
○菅原幸哉1・三ツ橋昇平1・増中 章2・玉置宏之1・小坂橋基夫1 (1農研機構 畜産研究部門・2農研機構西日本農業研究センター)

6. 育種

P59 イタリアンライグラス新品種「クワトロ-TK5」の東北日本海側および北陸地域での生産性 (1年目)
○久保田明人1・藤森雅博1・菅 和寛2・小橋有里3・長谷川昌伸3・稲葉 真4・小嶋裕子4・井川育昌5 (1東北農研・2山形畜試・3新潟畜研・4富山畜研・5石川畜試)

P60 エンドファイト感染フェストロリウムの幼苗での感染率 (2)
○久保田明人・藤森雅博 (東北農研)

P61 ドローンと画像解析を利用した簡易牧草個体選抜
○秋山征夫1・久保田明人2・藤森雅博2・眞田康治1 (1農研機構北農研・2農研機構東北農研)

P62 ソルガムコアコレクションを用いた出穂/開花特性の日印比較
○野口友嗣1・Sivakumar Subbarayan2・奥泉久人3 (1茨城工技セ・2Tamil Nadu農大・3農研機構遺伝資源センター)

P63 寒地型イネ科牧草におけるペレニアルライグラス「東北7号PR」の越夏性と収量性
○藤森雅博・久保田明人 (東北農研)

P64 ペレニアルライグラス「東北7号PR」の地域適応性試験
○藤森雅博1・秋山征夫2・上山泰史3・久保田明人1 (1東北農研・2北農研・3畜産部門)

P65 トウモロコシ早生化QTLの集積とその効果
○黄川田智洋1・佐藤 尚1・伊東栄作2・濃沼圭一3・村木正則2・玉置宏之3・三ツ橋昇平3・山岡康子4・川口 優5・榎 宏征6 (1農研機構北農研・2農研機構九沖農研・3農研機構畜産研究部門・4家畜改良センター熊本牧場・5家畜改良センター茨城牧場長野支場・6トヨタ自動車(株))

P66 ワラビー萎縮症及び南方さび病抵抗性飼料用トウモロコシ新品種「なつひむか」
○村木正則・伊東栄作 (農研機構九沖農研)

P67 南方さび病抵抗性で晩播できる早生の飼料用トウモロコシ新品種「さとみどり」
○村木正則・伊東栄作 (農研機構九沖農研)

P68 共生糸状菌 (*Epichloë uncinata*) が感染したイタリアンライグラスにおいて後代種子への菌の移行に影響する宿主植物の遺伝的要因 (1)
○吉田信代1・清 多佳子1・杉田紳一2・佐々木 亨2・菅原幸哉1 (1農研機構畜産研究部門・2日本草地畜産種子協会)

P69 バヒアグラスにおけるリグニン生合成に関与する CADおよびCOMT遺伝子の単離とその解析
○山田智仁1・権藤崇裕2・明石 良1 (1宮崎大農学部・2宮崎大フロンティア)

P70 高採種性イタリアンライグラスの育成に資する関連形質の調査
○川口 優1・櫻井光一1・相川 誠1・岩田康男2・関根 平2 (1家畜改良センター茨城牧場長野支場・2雪印種苗株式会社)

P71 ガレガ「北海1号」の系統特性
○佐藤広子1・奥村健治1・竹田芳彦2・大塚博志2・岩淵 慶2・安達美江子2・廣井清貞1 (1農研機構北農研・2ホクレン)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月26日の12:00から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。

ポスター発表 (10階 ホール)

奇数番号コアタイム: 3月25日 11:00~12:00
偶数番号コアタイム: 3月26日 11:00~12:00

6. 育種

P72	幼苗時の硝酸態窒素濃度を指標として育成したスーダングラス系統の選抜効果 ○川地太兵・須永義人 (農研機構畜産研究部門)
P73	Characteristics of seed propagation on BC1F1 progeny of interspecific hybridization between diploid <i>Brachiaria ruziziensis</i> and tetraploid <i>Brachiaria decumbens</i> ○Yogi Sidik Prasojol ¹ ・Genki Ishigaki ² ・Pattama Nitthaisong ² ・Ryo Akashi ² (1宮崎大学農学工学総合研究科・2宮崎大学農学部)
P74	関東北部におけるペレニアルライグラス育成系統「東北7号PR」の越夏性と夏季収量 ○清 多佳子・内山和宏・上山泰史 (農研機構 畜産研究部門)
P75	イタリアンライグラスにおけるいもち病抵抗性の幼苗接種検定による選抜効果 ○荒川 明 ¹ ・桂 真昭 ¹ ・高井智之 ¹ ・上床修弘 ¹ ・松岡 誠 ¹ ・波多野哲也 ¹ ・平八重一之 ¹ ・笹谷孝英 ² ・園田亮一 ¹ ・川上 顕 ¹ ・宮坂 篤 ¹ (1農研機構九州農研・2農研機構本部)
P76	フェストロリウム種子生産における収穫適期簡易判定法の確立に関する研究 ○加藤知寿子・大野和之・塩沢道明・早坂邦昭・櫻井光一 (家改セ茨城牧場長野支場)

7. 土壌・肥料

P77	完全更新法、表層攪拌法、作溝法で更新した採草地の温暖化ポテンシャル ○森 昭憲 (農研機構畜産研究部門)
P78	堆肥、スラリー、消化液の施用が那須の飼料畑から発生する温室効果ガスに及ぼす短期的影響 ○森 昭憲 (農研機構畜産研究部門)
P79	A new index for mapping moss-dominated biological soil crusts in semi-arid regions ○Chen Xiang ¹ ・Liu Shulin ¹ ・Peng Fei ¹ ・恒川篤史 ² ・Wang Tao ¹ (1NIEER, CAS・2Tottori University)
P80	飼料畑土壌における牛ふん堆肥の炭素分解特性 ○須永義人 ¹ ・原田久富美 ² ・新美 洋 ³ ・出口 新 ⁴ ・川地太兵 ¹ (1農研機構畜産研究部門・2農研機構本部・3農研機構九州沖縄農研・4農研機構東北農研)

8. その他

P81	北海道道央地方のI農業高校における草地教育 ○佐々木章晴 (北海道岩見沢農業高等学校・北海道大学農学院)
-----	---

9. 高校生 (コアタイムは番号に関わらず、3月26日 11:00~12:00です)

P82	採草地放牧を用いた球磨型繁殖牛飼養管理技術の確立を目指して ○早田友紀・椎葉悠莉乃・小田春希・豊永杏李・藤本梨沙・續山晃大・福屋直希 (熊本県立南稜高等学校)
P83	エコフィードを利用した環境に優しい養豚経営 ○檜橋真奈美・山崎奈々美 (熊本県立熊本農業高校)
P84	反射光スペクトルによる草地の植生構造および乾物草量と牧草体成分の推定 ○阿部安寿志 ¹ ・佐藤正義 ¹ ・池本 可 ¹ ・市川遥香 ¹ ・酒井岳琉 ¹ ・高原 涼 ¹ ・道端成美 ¹ ・伊藤美憂 ¹ ・近藤幸汰 ¹ ・佐々木海人 ¹ ・田中優翔 ¹ ・萩原奎太 ¹ ・村田 陸 ¹ ・佐々木章晴 ¹ ・内田 勝 ¹ ・成瀬延康 ² (1北海道岩見沢農業高等学校・2滋賀医科大学)

ポスター発表者は指定されたコアタイムにポスターの前で待機し、説明してください。
ポスターは3月26日の12:00から13:00の間に撤去してください。13:00以降に掲示されているポスターは大会事務局で処分します。